【様式5-2】

日本大学理事長特別研究（第2期）研究概要

研究代表者：通信教育部　教授　近藤　健史

■研究プロジェクト名

「自主創造型パーソン」の育成を目標とした全学共通教育における効果的なアクティブ・ラーニング開発に関する研究
－学部横断型教育の実現と中途退学者防止対策を含む学修支援体制の構築について－

【研究の特色・ポイント】

本研究では、次の３点（①何のために行うのかというねらい、②どのように行うかの方途、③その教育活動の評価をどう行うか）について実験（コンテンツ作成・実践）と分析を行う。
①独立性の強く物理的な距離もある各学部間での、アクティブ・ラーニング形式での全学共通教育実現の方策を構想する。
②全学的アクティブ・ラーニング実現のためのLMS設計を行い、その運用の試用を行う。

【研究の背景】

大学向けの中教審答申や新学習指導要領においても「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」が重視されるようになってきている。2016年「日本大学教育憲章」で示された「日本大学マインド」（能力・態度）を育成するためにも「日本大学全体規模でのアクティブ・ラーニング」を構想する必要があると考えた。

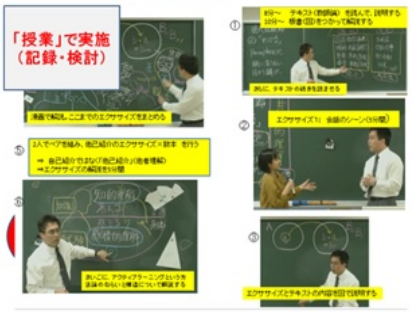
【研究成果の概要】

研究期間	平成　27　～　29 年度	研究費総交付額	39,823,000　円

①「アクティブ・ラーニング形式での全学共通教育実現の方策を構想」するために、通信教育部で行ったモデル授業を録画（記録）して検討し、アクティブ学修用の教材を作成した。
なお、「アクティブ・ラーニング」関係の文献調査も行い、先行研究整理も行っている。

②全学的アクティブ・ラーニング実現のためのLMSを設計して、そこに初年次教育や入学前教育のコンテンツを作成して載せておき、学生がアクセスして試用できるよう実験と実践を進めてきた。

①授業の記録



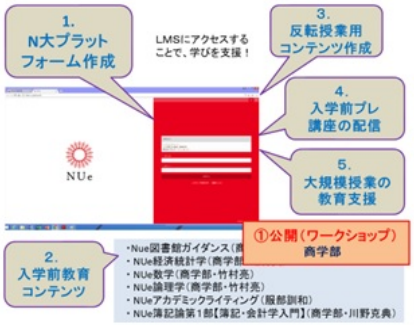
作成・頒布した冊子

先行研究調査

表1.　アクティブ・ラーニングに関する論文類

	論文数	5ページ以上	3～4ページ	2ページ以下
1997	2	1	1	0
1998	1	1	0	0
1999	0	0	0	0
2000	1	0	0	1
2001	0	0	0	0
2002	0	0	0	0
2003	0	0	0	0
2004	0	0	0	0
2005	1	1	0	0
2006	1	1	0	0
2007	2	1	1	0
2008	3	2	0	1
2009	8	2	2	4
2010	19	10	3	6
2011	14	9	2	3
2012	24	18	1	5
2013	63	41	8	14
2014	106	86	6	14
2015	206	172	10	24
2016	234	204	20	10

②LMS（プラットフォーム）



【研究成果の意義・効果】

全教員用に『自主創造型パーソンを育成するActive Learning　2018』（2018年3月）を作成して各学部に配布している。同上書にも記しているが、アクティブ・ラーニング導入には、その正しい理解（受け取り方）が必須となる。これまで、本学を含む数多の大学において同様の課題に関するシンポジウム等が開催されてきたが、それらの内容は概説書・一般書の知識レベルを紹介するに止まっていた。本来のアクティブ・ラーニング推進（国家的なカリキュラム改革）の理解については上智大学の奈須正裕教授を中心とする研究成果を理解する必要があると指摘しておいた。また、研究メンバーが同書を紹介する形で、外部機関等で講演をしている（大学、高等学校、キャリア教育事業等）。つまり、アクティブ・ラーニング推進に寄与し、また日本大学の教育を広めることに貢献している。